

令和3年度第2回公立大学法人滋賀県立大学経営協議会 議事録

日時・場所：令和3年8月2日（月）13時25分～14時50分 評議会室
出席者：廣川理事長、青木副理事長、山根理事、安原理事、高橋理事、
大日委員、小倉委員、北川委員、木村委員、築山委員
欠席者：山崎委員
事務局：八里事務局次長、山田総務課長、高木財務課長、寺村経営企画課長、
武田学生・就職支援課長、郡田教務課長、山中地域連携・研究支援課長、塚本参事、
西山課長補佐、岡主任主事

議事に先立ち、前回の経営協議会で質問のあったコロナ禍の近江楽座の活動状況について、高橋理事より報告があった。

【審議事項】

(1) 令和4年度予算編成方針(案)について

高木財務課長より、資料に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

(2) 令和3年度補正予算(案)について

高木財務課長より、資料に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

〔主な質疑・意見等〕

- ・学務事務管理システム更新において、補正予算案と長期継続契約見積書の令和3年度見積額の金額が違うのはなぜか。また、学内の長期継続契約見積額を大きく変更しているのはなぜか。
→補正額は、県補正予算に要望した時点の金額である。長期継続契約見積額は、その後精査した金額を記載しているため、金額に差異が生じている。また、長期継続契約見積額の変更については、初年度に構築費等を一括で支払うことにより、月々のリース金額が安くなったことによるものである。
- ・学務事務管理システム更新の入札において、補正額を超えた場合、超過額は大学が支払うことになるのか。逆に余った場合は、大学の予算となるのか。
→入札については、補正額を超えて執行はできないので、超過した場合は、入札不調となる。また、補正予算の財源は県補助金であり、用途が限定されているため、執行残は県に返却することになる。
- ・学務事務管理システム更新ということで、新たに追加する機能があれば教えてほしい。
→遠隔授業等に柔軟に対応するため、学習管理システム(LMS)機能を追加し、ポータルサイトと連携させる予定である。

【報告事項】

(1) 令和3年度予算執行状況について

高木財務課長より、資料に基づき報告があった。

(2) 新型コロナウイルス感染症拡大の防止に向けた取組等について

山田総務課長より、資料に基づき報告があった。

〔主な質疑・意見等〕

- ・学生のワクチンの接種状況は把握しているのか。それともこれから本格的に実施していくのか。

→当初の広域接種の対象は、教職員のみで学生は含まれていなかったが、7月末に県から学生まで拡大するとの通知があり、現在広報等の準備をしているところ。ただし、看護師や栄養士を目指す学生については、実習が始まるまでに希望する学生はすでに接種している状況である。

- ・コロナ禍において、学生や保護者から不安の声やクレームなどはなかったか。
→本学では遠隔授業開始当初は、ネットワーク環境に不安があったため、原則オンデマンドの授業とした。しかし、ライブ配信に比べると学生同士や教員の顔が見えないなど授業方法に不安を持っている学生が一定数いたが、学生アンケート結果からは、オンデマンドで実施することにより時間を有効活用した学習ができてよかったという意見もあった。学生や保護者への対応では、学内の感染対策を徹底し、対面授業を他の大学より少し早く再開できたことが学生や保護者の不安解消に寄与したと考えている。最近の問合せの傾向としては、ワクチン接種に関する内容が多くなっている。
- ・コロナ禍の定期試験をどのように実施しているのか。
→令和2年前期の遠隔授業の際は、テストをレポートに変更するなど、各教員が工夫をして実施していた。後期は、試験直前に遠隔授業に切り替わったが、試験については対面で行うという基本方針を示し、オンライン等（オンデマンド試験やレポート）を活用した方法に変えることも可能としたことから、対面とオンラインが両立した形となった。今年度の前期試験は、基本対面で実施している。

- (3) 新型コロナウイルス感染拡大予防にかかる対応について
青木副理事長より、資料に基づき報告があった。

【資料配布】

- (1) 令和2年度監事監査結果報告について

【その他】

- (1) フリーディスカッション

委員より、以下のような質問・意見があった。

- ・近畿圏の大阪や京都の大学では、課外活動の加入率の低下により課外活動が継続できないなど問題になっている。滋賀県立大学ではどうか。また、学内の学生の様子は、コロナ前と同程度まで戻っているのか。
→課外活動の加入率について、具体的な数値は持ち合わせていないが、感染対策を徹底し対面で勧誘を実施しており、学生たちからは課外活動ができないなどの声は聞いていない。また、学内の様子については、ほぼコロナ前と同じように学生生活を送っている状況と認識している。
- ・近江楽座は、学生が主体の活動なのか。また、どのくらいの学生が参加しているのか。
→学生が主体の活動で全学生2800名のうち約600名程度が参加している。

- (2) 次回以降の経営協議会開催日程について

寺村経営企画課長より、資料に基づき連絡があった。